

科目名	特別支援教育基礎			担当教員	永井 祐也	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2EFE508
期待される学修成果	子ども理解 学校と社会					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	特別支援教育の基本的な考え方や制度などについて、実際に即して理解することができる。 幼少期や学齢期、思春期に見られやすい障がいや疾患についての知識理解を深めると共に、対応の仕方や合理的配慮について考察することができる。 障がいや疾患の有無だけでなく、多様性を認め、相互に尊重し合える共生社会の形成に向けて、取り組むべき課題が自覚できる。					
授業の概要	幼稚園、小中学校等で教員になる際に、備えておきたい特別支援教育の知識・理解や心構えをわかりやすく解説するとともに、実際の学校生活で見られる事例を具体的に取り上げながら、対応の仕方をグループワークなどを通じて学びあう。					

授業計画	
第1回	特別支援教育の理念と基本的な考え方、国際的な動向（ICF、障害者権利条約、インクルーシブ教育など）
第2回	特別支援教育の歴史と現行の制度（通級による指導、特別支援学級、特別支援学校など）
第3回	支援システムの構築と法的整備、特別支援教育コーディネーターの役割と実際
第4回	個別の指導計画と個別の教育支援計画
第5回	LD・ADHDの理解と指導・支援
第6回	自閉症スペクトラムの理解と指導・支援
第7回	情緒障害・言語障害の理解と指導・支援
第8回	軽度知的障害の理解と指導・支援
第9回	肢体不自由・病弱・身体虚弱・重複障害の理解と指導・支援
第10回	視覚障害・聴覚障害の理解と指導・支援
第11回	その他の多様な状態を併せもつ子どもの理解と指導・支援（発達性運動協調性障害、不登校など）
第12回	母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童生徒の抱える困難さと教育的対応
第13回	保護者や関係機関との連携、早期発見・早期支援と専門機関や地域との連携
第14回	ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり、ICTの活用
第15回	進学支援・就労支援と連携（意思決定支援、キャリア教育、進学・就労支援、卒業後の支援など）、確認テスト

事前学修	2時間	次時の内容を予習し、事前レポートをまとめて提出
事後学修	2時間	関連する内容に関わる新聞記事や書籍を読んで知見を深める
フィードバックの方法	事前レポートや確認テストの事後指導を丁寧に行い知識の定着を図ると共に、グループワークの評価の工夫を行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない。
レポート	70%	ワークシート及び確認テストを評価
上記以外の試験・平常点評価	30%	レポート内容の評価
補足事項		

教科書

書名		著者	出版社	ISBN	備考
特別支援教育（アクティベート教育学 7）		廣瀬由美子・石塚謙二	ミネルヴァ書房	9784623085378	なし
参考資料	小学校学習指導要領 文部科学省 東洋館出版社 2018/2/28 ISBN-10：441034605 ISBN-13：978-4491034607 中学校学習指導要領 文部科学省 東山書房 2020/1/15 ISBN-10：4827815798 ISBN-13：978-4827815795 特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 文部科学省 海文堂出版 2018/3/1 ISBN-10：4303124249 ISBN-13：978-4303124243				

科目名	特別支援教育基礎			担当教員	安田 和夫	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2EFE508	
期待される学修成果						
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	教員(講師を含む)、公務員(教育行政)					
実務経験を生かした授業内容	現場での教育経験や教育行政経験を生かし、特別支援教育を取り巻く情勢をわかりやすく講義するとともに、子どもが抱える困難さを感じることができる体験的な学習プログラムを積極的に導入する。					
到達目標及びテーマ	特別支援教育の現状と課題、小・中学校や特別支援学校における特別支援教育の概要、基本的な障害の特性、学校教育現場における合理的配慮や具体的な支援の在り方について理解している。多様性のある子どもたちと共に学習や生活ができるよう、自ら学ぶ続けていく必要性を理解し、将来への意欲を持つことができる。					
授業の概要	特別支援教育は、平成19年4月から学校教育法に位置付けられ、特別支援学校のみならず、すべての学校、学級において、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍していることを前提にして、特別支援教育が推進されている。 本講義では、主に、小中学校などの教員を目指す教員として身につけておきたい特別支援教育の基礎的な知見について概説する。なお、グループワーク、グループ討議などを積極的に取り入れ、実践的な学びになるように展開する。					

授業計画						
第1回	特別支援教育の理念と制度（１） －特殊教育から特別支援教育への転換とインクルーシブ教育システム、合理的配慮と基礎的環境整備－					
第2回	特別支援教育の理念と制度（２） －特別支援教育の基本的な考え方と特別支援教育の意義と制度－					
第3回	通常の学級担任の気づきとアセスメント －通常学級における特別支援教育、児童生徒の特性理解とアセスメント、学級集団の育成－					
第4回	発達障害の心理特性（１）－ＬＤ，ＡＤＨＤの特性理解と基本的な指導・対応、合理的配慮の実例－					
第5回	発達障害の心理特性（２）－ＡＳＤ，軽度知的障害の特性理解と基本的な指導・対応、合理的配慮の実例－					
第6回	二次障害の理解と対応－環境と子どもとの相互関係、二次障害へのタイプと対応－					
第7回	様々な障害の理解と対応 －視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱の特性と特別の指導、合理的配慮－					
第8回	特別な教育的ニーズへの理解と対応 －日本語指導が必要な児童生徒や貧困・虐待が背景にある不登校の教育的ニーズと事例検討－					
第9回	特別の指導「自立活動」 －自立活動の内容と指導計画立案、指導の実例、合理的配慮と自立活動の関係－					
第10回	「通級による指導」での指導の実例 －「通級による指導」の意義と制度化、自立活動を参考として進める学習内容と評価活動、通常学級担任や保護者との連携－					
第11回	特別支援学級での指導の実例 －特別支援学級の仕組みと教育課程、障害種別に応じた教育内容と実践例－					
第12回	ＩＣＴ機器の活用と指導の実例 －個別最適な学びと協同的な学び、ユニバーサルデザインとICT活用、ニーズに応じたICT活用と合理的配慮事例－					
第13回	個別の教育支援計画と個別の指導計画 －個別の教育支援計画と個別の指導計画の策定と活用、それぞれの違い、一貫した切れ目のない支援－					
第14回	特別支援教育コーディネーターと校内支援体制 －特別支援教育の体制づくり、校内支援体制の確立、管理職及び特別支援教育コーディネーターの役割－					
第15回	関係機関や保護者との連携、確認テスト（振り返り） －地域全体で形成する支援体制、特別支援学校のセンター的役割とその活用、関係機関や保護者との連携－					

事前学修	2時間	次時の内容を予習し、関連する情報や新聞記事などを収集しておく。
事後学修	2時間	指定する課題レポートを提出する。

フィードバックの方法	レポートや確認テストの事後評価を丁寧に行い、知識の定着を図るとともに、グループワークや演習の振り返りを授業中に行う。
------------	--

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	70%	基本的な知識や考え方の理解が定着しているか。姿勢、意欲が見られるか。
レポート	30%	授業内容を理解した上でのレポートになっているか。多面的多角的な観点で書かれているか
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特別支援教育（アクティベート教育学 7）	廣瀬由美子、石塚謙二編著	ミネルヴァ書房	4623085376	ISBN-13:978-4623085378
参考資料	小学校学習指導要領 文部科学省 東洋館出版社 2018/02/28 ISBN-10:4419034605 ISBN-13：978-4491034607 中学校学習指導要領 文部科学省 東山書房 2020/1/15 ISBN-10：4827815798 ISBN-13：978-4827815795 特別支援学校幼稚園部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 海文堂出版 2018/3/1 ISBN-10：4303124249 ISBN-13：978-4303124243			

科目名	特別支援教育基礎			担当教員	松本 和久	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2EFE508
期待される学修成果	子ども理解 学校と社会					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	教諭（講師含む）					
実務経験を生かした授業内容	通常の学級（３年）、特別支援学級（11年）、特別支援学校（３年）と、合計17年間学校教育現場で児童生徒の支援に携わってきた。その経験を踏まえ、具体的な事例を交えながら授業を進める。					
到達目標及びテーマ	特別支援教育の基本的な考え方や制度などについて、実際に即して理解することができる。 幼少期、学齢期、思春期に見られやすい障害や疾患についての知識理解を深めるとともに、対応の仕方や合理的配慮について考察することができる。 障害や疾患の有無だけではなく、多様性を認め、相互に尊重し合える共生社会形成に向けて、取り組むべき課題が自覚できる。					
授業の概要	幼稚園や小中学校等で教員になる際に、備えておきたい知識・理解や心構えなどを分かりやすく解説するとともに、実際の学校生活で見られる事例を具体的に引き上げながら、対応の仕方をグループワークなどを通じて学び合う。					

授業計画	
第1回	特別支援教育の理念と基本的な考え方、国際的な動向（ICF、障害者権利条約、インクルーシブ教育など）
第2回	特別支援教育の歴史と現行の制度（通級による指導、特別支援学級、特別支援学校など）
第3回	支援システムの構築と法的整備、特別支援教育コーディネーターの役割と実際
第4回	個別の指導計画と個別の教育支援計画
第5回	LD・ADHDの理解と指導・支援
第6回	ASDの理解と指導・支援
第7回	情緒障害・言語障害の理解と指導・支援
第8回	軽度知的障害の理解と指導・支援
第9回	肢体不自由・病弱・身体虚弱・重複障害の理解と指導・支援
第10回	視覚障害・聴覚障害の理解と指導・支援
第11回	その他の多様な状態を併せ持つ子どもの理解と指導・支援（発達性強調運動障害・不登校など）
第12回	母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児，児童生徒の抱える困難さと教育的対応
第13回	保護者や関係機関との連携，早期発見，早期支援と専門機関や地域との連携
第14回	ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり，ICTの活用
第15回	進学支援，就労支援と連携（意思決定支援，キャリア教育，進学・就労支援，卒業後の支援など），確認テスト

事前学修	2時間	次時の内容を予習し，事前レポートをまとめて提出
事後学修	2時間	関連する内容に関わる新聞記事や書籍を読んで知見を深める
フィードバックの方法	事前レポートや確認テストの事後評価を丁寧に行い知識の定着を図るとともに，グループワークの評価の工夫を行う。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	
上記以外の試験・平常点評価		70%	ワークシート及び確認テストを評価
レポート		30%	レポート内容を評価
補足事項			

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特別支援教育（アクティベート教育学 7）	監修 汐見稔幸・奈須正裕， 編著 廣瀬由美子・石塚謙二	ミネルヴァ書房	978-4-623-08537-8	なし
参考資料	小学校学習指導要領，文部科学省，東洋館出版社，ISBN 978-4-491-03460-7 中学校学習指導要領，文部科学省，東山書房，ISBN 978-4-827-81579-5 特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領，文部科学省，海文堂出版，ISBN 978-4-303-12424-3			